

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 29 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02613

研究課題名(和文) 福永武彦と加藤周一を通じた1930～40年代の若手文学者の知的ネットワークの解明

研究課題名(英文) Research on the intellectual network of young literary writers in the 1930s and 40s-Focusing on Takehiko Fukunaga and Shuichi Kato

研究代表者

中島 亜紀(西岡亜紀)(NAKAJIMA(NISHIOKA), Aki)

立命館大学・文学部・准教授

研究者番号：70456276

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文): 本研究では、1930～40年代の若手文学者の基盤となった知識や人脈のネットワークを福永武彦と加藤周一を軸に解明した。研究代表者・西岡の福永武彦と研究分担者・鷲巢の加藤周一研究を合流させることで知的地図を総合的に捉える試みである。

福永や加藤の生誕・没年イベント(2017～19)の企画運営、関連イベントへの登壇、『年報・福永武彦の世界』第5号の刊行、加藤周一文庫『青春ノート』(全8冊)のアーカイブ公開が成った。個別のものでは、西岡の学会報告2件、講演4件、論文4本、座談会2件、鷲巢の論文7件、単著2冊、共著2冊、2017年度より加わった岩津、近藤による論文3本、学会報告1件、講演3件がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義は、以下の3点である。第1に福永武彦と加藤周一に関する作家研究を相補的に進めることで新たな人や思想のつながりを開拓できる点。第2にそれを踏まえた作品解読の新たな視点が見込まれる点。第3に同時代や後続の作家研究にも波及しうる点。

社会的意義は、以下の3点である。第1に加藤周一文庫が所蔵する資料のデジタルアーカイブ化と公開に貢献できる点。第2に基礎研究の進展がアーカイブ化作業の効率化や情報の精度を高める点。第3に加藤や福永の生誕100周年を記念した講演会やシンポジウムの企画や議論を、文学研究または思想研究のみに限定しない超域的な視点によって設定できる点。

研究成果の概要(英文): This research aimed to elucidate the knowledge and personal connections that became the foundation of young literary writers in the 1930s and 1940s, centering on Takehiko Fukunaga and Shuichi Kato, and to construct an intellectual network surrounding them. This is an attempt to comprehensively capture the intellectual map by joining the research principal, Takehiko Fukunaga of Nishioka, and the research co-worker, Shuichi Kato of Washisu.

Planning and management of Fukunaga and Kato's birth and death event (2017-19), appearance at related events, publication of "Annual Report Takehiko Fukunaga's World" No. 5 (2019), Shuichi Kato Bunko's "Youth Note" (All 8 books) etc. have been archived and made public. Individually, 2 reports of Nishioka's academic conference, 2 lectures, 3 papers, 1 shared contribution of books, 1 lecture of Washisu, 4 papers and 1 book were published.

研究分野：比較文学

キーワード：比較文学 思想史 文学一般 日本文学 フランス文学 福永武彦 加藤周一 ネットワーク

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1930～40年代に学生時代を過ごし戦後に作家として本格的に出発した文学者たちの没後から時間が経ち、彼らの草稿・遺稿・ノート類といった一次資料の収集と整理が進んでいる。たとえば、長崎市の遠藤周作文学館(2000～)、東京女子大学の丸山眞男文庫(2005～)、立命館大学の加藤周一文庫(2016～)におけるデータベース構築と資料公開、講演会の開催などである。

一方で、日記や手紙などの私的文書の公開、研究者や同時代の書き手による作家論の出版も進む。『福永武彦戦後日記』(新潮社、2011)、『福永武彦新生日記』(同、2012)、近藤圭一・岩津航・西岡亜紀・山田兼士『福永武彦を語る 2009-2012』(濤標、2012)、渡邊一民『福永武彦とその時代』(みすず書房、2014)、鷲巣力『加藤周一を読む 「理」の人にして「情」の人』(岩波書店、2011)、同『「加藤周一」という生き方』(筑摩選書、2012)、遠藤周作『『深い河』創作日記』(講談社、2000)などである。

2. 研究の目的

本研究は、上述したような1930～40年代に若手であった作家たちに関する近年の研究動向に続きつつ、それらをより広範な視野から捉える試みの一つである。主な目的は次の2点。

第1に、研究代表者・西岡が構築してきた福永武彦を軸とした研究と、研究分担者・鷲巣が構築してきた加藤周一を軸とした研究を合流させることで、同時代を生きた両作家が共有する学術・思想の背景をより多角的・包括的に解明することである。第2に、鷲巣と西岡が連携して立命館大学加藤周一文庫の蔵書・遺稿・ノート類の解析とデータベース構築を進めることで、資料の全容を明らかにしつつ一般公開を促進することである(平成28年より順次公開予定)。

これらの共同研究により、1930～40年代の若手文学者の知的ネットワークをより総合的に捉え、立命館大学加藤周一文庫を通して、同時代の作家の基礎研究や国内外の思想研究にも広く波及しうる有意義な社会還元を目指した。具体的には、以下のようなことである。

(1) 福永武彦を軸とした知的ネットワークの調査の継続と知的地図の補完を行う。

西岡が個人で行う東京・長崎・長野・広島などの学術機関の踏査を継続する。また、それを踏まえて福永を取り巻く人脈や知識の網目を補完していく。

の踏査の結果やそれに基づく考察(作家論・作品論、近代日本の学問編成、キリスト教受容の様相など)を、国内外の学会や著書・論文にて報告する。

下記の、加藤周一文庫の活動との協働によって生まれた知見を報告する。

(2) 加藤周一文庫が所蔵する資料のデータベース構築を促進する。

鷲巣と西岡のもとで、専門性をもった院生のアルバイトが加藤周一文庫所蔵の蔵書・遺稿・ノート類の解析とデータベース化の作業を進める。

年5～6回、加藤周一研究会(国内外の研究者との共同研究会の時もある)を開き、多分野の専門家の知見に照らした資料の解析を検討する。

(3) 上記の成果を土台に、公開の講演会やシンポジウムの開催を通して社会還元を行う。

平成28年の加藤周一文庫の開設、平成30年の福永生誕100周年、翌年の加藤生誕100周年に合わせて公開講演会やシンポジウムを開催し、積極的な社会還元を目指す。

3. 研究の方法

本研究は、以下のような方法で、平成28～31年度の4ヶ年で行った。

平成28～30年度には一貫して、研究代表者・西岡を中心に福永武彦を軸とした1930～40年代の東大の若者の知的ネットワークの調査研究を行った。また、研究分担者・鷲巣の主導のもとで院生アルバイトによる加藤周一文庫所蔵の蔵書・遺稿・ノート類の解析とデータベース構築を進めた。こうした活動による知見を踏まえて、両作家をめぐる研究の進展を共有することで、彼らの周囲の中村真一郎や堀辰雄らも含む、彼らを取り巻く知的地図を拡充した。また、加藤周一研究会を開催し、データの解析についての意見交流や国内外の専門家の招聘なども行った。

西岡の研究手法

- (1) 福永や加藤が在籍していた教育機関の教育環境や交友関係の調査と資料収集
- (2) 長崎・築地の関連機関、日仏会館(東京)、関西日仏学館(京都)などの踏査
- (3) 同時代の原爆文学や反戦ネットワークやなどとの関係を調査・考察
- (4) 最終年度における『年報・福永武彦の世界』第5号の編集・刊行

鷲巣の研究手法

- (1) 加藤の手稿ノート類の解析：立命館大学に寄贈された手稿ノート類を院生アルバイトとともに解析、データベース構築とアーカイブ化を促進
- (2) デジタルアーカイブ公開の継続

こうした基礎研究活動を踏まえた成果として、立命館大学加藤周一文庫におけるデータベースの一般公開、西岡や研究分担者・岩津航、近藤圭一(平成29年度～)による学会報告や論文、

鷺巣による図書などの形でも、社会に供した。加藤周一文庫開設（平成 28 年度）福永武彦生誕 100 周年（平成 30 年度）、加藤周一生誕 100 周年（平成 31 年度）における公開イベントの企画運営や登壇という形での成果還元も成った。

平成 31 年度の最終年度は『年報・福永武彦の世界』第 5 号の編集と刊行を残し、西岡が責任編集、4 号までの責任編集を行った近藤が適宜知見を提供した。また、岩津は同誌に寄稿を行い、岩津、近藤、西岡を含むメンバーで座談会「福永武彦の過去・現在・未来」では福永武彦研究の現状と課題を討議するという形で、本研究の福永研究の総括としての年報編集に宛てた。

4．研究成果

本研究では、1930～40 年代の若手文学者の基盤を成す知識や人脈を福永武彦と加藤周一を軸に解明し、彼らを取り巻く知的ネットワークの構築を目指した。研究代表者・西岡の福永武彦と研究分担者・鷺巣の加藤周一研究を合流させ、知的地図を全体的・包括的に捉える試みとして、研究対象の平成 29～平成 31 年度の生誕・没年のイベントとも連携しつつ、研究実績を重ねることができた。

基礎研究では、西岡は都内の大学、図書館、日仏会館、長崎などでの調査活動、資料収集、テキスト解読、各種学会における最新の研究動向の探査や隣接領域の研究者との情報交換などを継続的に行った。鷺巣は加藤文庫の手稿ノート類の解析とデータベース構築のための分析作業を継続、加藤周一『青春ノート』（全 8 冊）のアーカイブ化を進めた。

上記を踏まえた成果報告、社会還元は以下。平成 28 年度には、鷺巣主導での加藤周一文庫開設記念イベントや加藤周一研究会開催を行った。西岡は上記の鷺巣の活動に協力するほか『年報・福永武彦の世界』第 4 号に掲載された座談会にて、加藤周一文庫における福永献呈本の一部に言及・公表した。平成 29 年度には、西岡は学会報告 1 件、講演 1 件、鷺巣は論文 3 本、平成 30 年度には、西岡は学会報告 1 件、講演 2 件、論文 2 件、鷺巣は図書 4 冊（単著 2 / 編著 2）の刊行、論文 4 本が成った。なお、西岡による学会報告や講演はいずれも福永、加藤、中村真一郎などの生誕、没年を記念するシンポジウム、講演会、学会におけるワークショップ企画（応募審査制）などの一環である。この間、岩津は西岡とともに学会のワークショップでの報告や日仏会館での講演を行う、紀要への投稿を行う、フランスの大学における複数回講演するといったさまざまな形での学術的な成果発信に努めた。

最終年度には、西岡の責任編集で『年報・福永武彦の世界』第 5 号を刊行した（本誌の編集には第 4 号までの責任編集を担当した近藤が必要なときに助言を行った）。福永武彦に関する座談会、3 本の論文、1 本の書評、1 本の資料紹介を含むものである。本研究の福永研究の報告書としての役割も兼ねるものとして、3 月に刊行し、国内の関連機関等に発送する。これに加えて西岡は、2 本の論文を執筆した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 西岡亜紀	4. 巻 122
2. 論文標題 京に静かに響く 道成寺の鐘、南蛮寺の鐘にまつわる交流と再生	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 263 - 278
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡亜紀	4. 巻 5
2. 論文標題 【資料紹介】立命館大学加藤周一文庫準貴重書庫所蔵・福永武彦関連本リスト	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報・福永武彦の世界	6. 最初と最後の頁 80 - 104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航	4. 巻 5
2. 論文標題 福永武彦と堀田善衛	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報・福永武彦の世界	6. 最初と最後の頁 75 - 81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航、近藤圭一、戸塚学、西岡亜紀、（紙上参加）飯島洋	4. 巻 5
2. 論文標題 座談会 福永武彦研究の過去・現在・未来	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報・福永武彦の世界	6. 最初と最後の頁 6 - 41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡亜紀	4. 巻 14
2. 論文標題 モスラが来る！ 「発光妖精とモスラ」における文学の運命の隠喩	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中村真一郎手帖	6. 最初と最後の頁 21-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡亜紀	4. 巻 78
2. 論文標題 「日本語」でフィクションを書くという格闘～マチネ・ポエティックと大岡信をつなぐ線～	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 昭和文学研究	6. 最初と最後の頁 41-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鷲巣力	4. 巻 58
2. 論文標題 林達夫への精神史的逍遙 (7)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 イタリア図書	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鷲巣力	4. 巻 60
2. 論文標題 林達夫への精神史的逍遙 (8)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 イタリア図書	6. 最初と最後の頁 2-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鷲巣力	4. 巻 56
2. 論文標題 林達夫への精神的逍遙(5) 生い立ちの記(4) 第一高等学校休学から中退へ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 イタリア図書	6. 最初と最後の頁 10 - 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鷲巣力	4. 巻 57
2. 論文標題 林達夫への精神的逍遙(6) 生い立ちの記(5) 京都帝国大学に学ぶ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 イタリア図書	6. 最初と最後の頁 28 - 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鷲巣力	4. 巻 13号
2. 論文標題 「加藤周一文庫」と加藤周一の方法	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 丸山眞男記念比較思想研究センター報告	6. 最初と最後の頁 50 - 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鷲巣力	4. 巻 1
2. 論文標題 活きた文庫を目指して 加藤周一文庫の現在と将来	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 個人文庫をもつ大学 その意義と可能性(札幌大学創立50周年記念公開講座講演集)	6. 最初と最後の頁 5 - 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航	4. 巻 第10号
2. 論文標題 「加藤周一とフランス文学——一九四〇年代後半の「理性」と民主主義	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 金沢大学歴史言語文化学系論集 言語・文学篇	6. 最初と最後の頁 79-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤圭一	4. 巻 第922号
2. 論文標題 書評 森本真一著『天翔る詩魂 フォークナー小論』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 学苑	6. 最初と最後の頁 36-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤圭一・飯島洋・岩津航・田口耕平・西岡亜紀・山田兼士	4. 巻 4号
2. 論文標題 座談会 二十一世紀の福永武彦を求めて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 年報・福永武彦の世界	6. 最初と最後の頁 6-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鷲巢力	4. 巻 12号
2. 論文標題 加藤周一書簡 丸山眞男宛校注	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 丸山眞男記念比較思想研究センター報告	6. 最初と最後の頁 31-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Aki Niahioka
2. 発表標題 日本の紙芝居の100年～今日までの変遷と広がり～
3. 学会等名 Swiss National Museum open seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ko Iwatsu
2. 発表標題 Hotta Yoshie (1918-1998) ou comment temoigner de l' Histoire : Japon, Chine, France
3. 学会等名 トゥールーズ大学ジャン・ジョレス校日本学科 Jeudis du Japon (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ko Iwatsu
2. 発表標題 Fukunaga, Fondane, Gary : mythes et gouffre
3. 学会等名 トゥールーズ大学ジャン・ジョレス校比較文学科 Travaux en cours (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡亜紀
2. 発表標題 『モスラ』における原始 vs. 文明 -文学 (または文学者) の運命
3. 学会等名 中村真一郎の会総会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西岡亜紀
2. 発表標題 マンガ・アニメ世代にこそ読んでほしい福永武彦と中村真一郎
3. 学会等名 日本マンガ学会 名古屋マンガ研究部会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西岡亜紀
2. 発表標題 世界文学のなかの「人間」 福永武彦の「ロマン」構想（パネル発表「『1946・文学的考察』における世界文学のプログラム」）
3. 学会等名 日本近代文学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岩津航
2. 発表標題 外国語・理性・民主主義 加藤周一の世界文学（パネル発表「『1946・文学的考察』における世界文学のプログラム」）
3. 学会等名 日本近代文学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西岡亜紀
2. 発表標題 福永武彦の「戦後」を読む ～『1946・文学的考察』の小説構想から
3. 学会等名 日仏文化講座（日仏会館）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岩津航
2. 発表標題 加藤周一と一八世紀フランス的理性
3. 学会等名 日仏文化講座（日仏会館）（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 鷺巣力	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 528
3. 書名 加藤周一はいかにして「加藤周一」となったか 『羊の歌』を読みなおす	

1. 著者名 渡辺 考、鷺巣 力	4. 発行年 2018年
2. 出版社 論創社	5. 総ページ数 240
3. 書名 加藤周一 青春と戦争 『青春ノート』を読む	

1. 著者名 加藤 周一、鷺巣 力、半田 侑子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 346
3. 書名 加藤周一青春ノート 1937-1942	

1. 著者名 鷲巣力	4. 発行年 2018年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数
3. 書名 加藤周一『青春ノート(抄録)』(共編著)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

立命館大学図書館加藤周一デジタルアーカイブ https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/2671055100 立命館大学図書館 / 加藤周一デジタルアーカイブ https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/2671055100 福永武彦の世界 https://fukunagatakehiko.web.fc2.com/ 加藤周一文庫 青春ノートデジタルアーカイブ https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/2671055100

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鷲巣 力 (Washizu Tsutomu) (30712210)	立命館大学・衣笠総合研究機構・教授 (34315)	
研究分担者	近藤 圭一 (Kondo Keiichi) (60306454)	聖徳大学・言語文化研究所・准教授 (32517)	
研究分担者	岩津 航 (Iwatsu Ko) (60507359)	金沢大学・歴史言語文化学系・教授 (13301)	